

平成 24 年度主要事業概要報告

1 公益財団法人移行への対応

当年度より当財団は、『公益財団法人網走監獄保存財団』となり、より透明性、公平性の高い運営が求められております。対応するために下記の事業を行いました。

(1) 20 年会計基準に準拠する公益財団会計システムへの更新 事業

新制度上の監督官庁届出様式となる平成 20 年会計基準に準拠する電算会計システムを導入しました。

予算額 1, 583 千円

決算額 1, 583 千円

(支出科目：法人会計 什器備品取得) ※減価償却引当積立金 1,583 千円取崩で対応

(2) 窓口入場管理システム更新 事業

入場券発券窓口管理システムを更新しました。タッチパネル式 POS レジを採用することにより、入場者管理に関する様々な情報入力、統計出力が行えるものとなり、入館者動向集約、旅行代理店送客状況把握などの経営情報管理を行なえるようになりました。

予算額 7, 150 千円

決算額 6, 825 千円

(支出科目：公益目的事業会計 什器備品取得) ※減価償却引当積立金 7,150 千円取崩で対応

(3) 収益事業販売管理システム更新 事業

効率的経営管理を行うため、窓口入場管理システムに連動する POS レジシステムを収益事業部門：庁舎内ミュージアムショップに導入しました。当初固定資産取得を計画していましたがリースによる導入としました。(物件価格 2,800 千円 リース期間 60 ヶ月)

予算額 1, 000 千円

決算額 307 千円

(支出科目：収益事業会計 賃借料)

2 博物館網走監獄 30 年記念事業の実施

昭和 58 年 7 月 6 日に開館した当館は、本年無事に開館 30 年を迎え、記念事業として下記の事業を行いました。

(1) 開館 30 年記念祝賀会、記念講演会開催 事業

平成 24 年 11 月 9 日網走市内ホテルを会場に開館 30 年記念式典・祝賀会を挙行いたしました。170 名を超す関係者のご列席を得、盛大かつ和やかな宴となりました。式典に合わせて北海道内における建築史の権威、角幸博北海道大学名誉教授を講師にお迎えし「博物館網走監獄の魅力と価値」と題し記念講演会を開催しました。

(2) 開館 30 年記念事業

- ① 長年続けてまいりました網走刑務所被収容者用図書寄贈を本年は、記念事業として 100 万円相当の図書寄贈としました。 1,000 千円
- ② 博物館網走監獄「館銘碑」の設置 貴重な文化財を保存することが使命である博物館事業の永続性を象徴する重厚な石を題材とした館銘碑を駐車場入り口ゲート前に設置いたしました。(5,250 千円)
- ③ 園地・園路・駐車場改修事業 開館より 30 年を経過したことによる施設老朽化対策を進めました。(150,926 千円)

(3) 記念出版事業

- ① 「写真集博物館網走監獄」刊行 当館初の本格的な建築写真集を刊行しました。発刊した 4 月に登録有形文化財認定の内示があり、時期が重なったことから大きな話題となりました。
- ② 「北海道集治監勤務日記」刊行 樺戸集治監に勤務した看守の勤務日記 を博物館研究成果として 8 年の時間をかけてまとめ、北海道新聞社より出版いたしました。
- ③ 「博物館網走監獄開館 30 年記念誌」刊行 記念式典の実施に合わせて博物館創設時からの記録をまとめたほか、網走刑務所関係者による対談、当財団役員による博物館の将来の展望についての対談を掲載した記念誌を刊行いたしました。938 千円

3 充実した博物館の運営を図る

公益認定財団が運営する博物館として限られた視野にとらわれることなく、観光、産業、教育、地域のまちづくりなど、横断複合的な事業活動を模索し、地域の生活文化に寄与する開かれた博物館運営を進めました。

(1) 館内移築建築物の登録文化財認定にかかる事業

- ① 平成 17 年登録の 3 棟に加え、文化庁に追加申請した 7 棟が国の登録文化財となりましたので、網走刑務所に登録プレートのレプリカ製作を依頼、それぞれの建造物壁面に取付けました。(当初計画の屋外プレート台座 7 基製作設置より変更) 44 千円
- ② 登録文化財となった旧網走刑務所哨舎 4 棟中、3 棟に軟石造基礎を設置し、腐朽した土台材部分の修復作業を行いました。 599 千円

予算額 3, 6 6 0 千円

決算額 6 4 3 千円

(支出科目：1 公益目的事業会計 消耗品、2. 公益目的事業会計 構築物取得)

(2) 博物館の教育普及活動 事業

- ① 体験講座、ワークショップ開催 五翼放射状平屋舎房等の移築建造物が明治 45 年の建築より 100 年を迎えたことから「ペーパークラフトで重要文化財をつくろう」、網走刑務所の作業に関連した「渋柿染め体験」、博物館周囲の豊かな自然環境を利用する「ニポポの森のリース作り」など 6 講座を開催しました。 130 千円
- ② 看守長屋の年中行事 看守長屋を会場に『端午の節句』『七夕』『十五夜』など 8 回開催しました。 116 千円
- ③ 農園体験ワークショップ 6 回連続講座とし、園地内に「博物館の展示としての景観づくりを兼ねたもの」をテーマにしたキッチンガーデンを造り野菜、果樹を栽培、9 月の収穫祭イベントにて収穫物を利用したグルメコンテストを実施しました。 746 千円
- ④ 季節イベント開催 博物館利用者誘致につながる参加しやすく楽しいイベントを開催しました。5 月『GW イベント』、7 月は好評の「刑務作業製品即売会」、9 月シルバーデー期間に『二見湖畔神社収穫祭』『案山子コンテス』トを行いました。 1, 772 千円
- ⑤ 研究書籍『樺戸集治監勤務日記』出版に併せ「初めての古文書解説教室」を開催しました。
- ⑥ ワークショップやイベント開催等の「行事案内リーフレット」「博物館概要」を制作し市内、学校等に配布、広報をしました。

予算額 3, 2 0 0 千円

決算額 2, 7 6 4 千円

(支出科目：公益目的事業会計 旅費交通費、教育普及費、諸謝費、臨時雇用賃金、消耗品費、広報費)

(3) 企画展、特別展開催 事業

4月から9月末まで歴史館特別展示コーナーを会場に国内行刑資料を収集研究している法務省矯正研修所より、監獄設置以来実際に使用されていた囚人戒具、衣服、雑具、看守制服などの資料の特別貸与を受け『開館30周年記念 矯正資料移動展 行刑資料の足跡展』特別展を開催しました。

10月から3月末までは同会場に於いて「写真博物館網走監獄」刊行と登録文化財の追加認定を受けて『並木博夫撮影：網走監獄の「光と影」建築写真展』を開催しました。

予算額 1,150千円

決算額 1,008千円

(支出科目：公益目的事業会計・旅費交通費、通信運搬費、器具費、教育普及費、賃借料)

(4) 博物館網走監獄友の会助成 事業

「二見桜並木の植樹と観桜会」「中央道路慰霊碑清掃活動」「友の会バス旅行 空知集治監と幌内炭坑を訪ねる旅」「特別展資料解説会」などを実施し、生涯学習の拠点として博物館を活用し、会員相互の和を広げ充実した活動を行いました。(助成はバスチャーター、印刷物制作費用等に充当)

予算額 80千円

決算額 80千円

(支出科目：公益目的事業会計 教育普及費)

(5) 『二見桜並木と古道をまもりそだてる会』助成 事業

並木への植樹用苗木提供、下草刈り作業の外部委託などへの費用助成を実施しました。

予算額 320千円

決算額 153千円

(支出科目：公益目的事業会計 植栽雑費)

4 園路・園地の整備事業の実施、並びに施設の見直し

博物館施設老朽化により利用者層の高齢化、海外からの来館者増加に対応が取れなくなってきたおりました。問題に対処し、22年度に園地、園路再整備基本構想を策定、これを受けた実施設計に基づき再整備事業を実施しました。

(1) 園地・園路駐車場再整備 事業

基本構想、実施設計に基づいて、幼年、高齢者、障がい者が季節を問わずに安心・安全に移動でき、潤いのある施設づくりを行いました。また施設各所の老朽箇所改修を進めました。なお、本事業は博物館開館30年記念事業の一環として実施いたしました。

- ① 土木工事 第2駐車場再整備連絡道路拡幅、入場口～正門前庭～旧庁舎間レンガ舗装、園路凍結遅延対策滑り止め加工インターロッキング舗装、手すり新設、第1駐車場舗装修復、雨水溝改修 118,360千円
- ② 電気工事 園路、駐車場夜間用照明設備改修工事（歩行者安全対策）、歴史館及び各施設内照明器具LED化による省電力対策工事、給電線一部更新、配管路埋設工事 24,736千円、
- ③ 造園工事 花壇造成改修、宿根草5,000株植栽（快適空間の創出） 4,568千円
- ④ 水道工事 老朽化水道管、設備改修工事 3,262千円

予算額 148,000千円

決算額 150,926千円

（支出科目：公益目的事業会計 環境整備支出）※園地園路整備積立金148,000千円取崩で対応

(2) 網走監獄旧庁舎改修基本設計 事業

昭和63年の移築より25年が経過する網走監獄旧庁舎(国登録有形文化財)の内装再現、見学導入個所としてのインフォメーション機能の追加など展示企画、トイレ衛生設備の老朽化対策、内部に設置した収益事業ミュージアムショップの入館者休憩（軽飲食）設備増設等の課題に対応する基本設計作業を行いました。成果に基づき平成25年度において改修作業を実施します。

予算額 1,000千円

決算額 998千円

（支出科目：公益目的事業会計 建設仮勘定）※減価償却引当金1,000千円取崩で対応

(3) 館内建造物屋根修復等実施設計 事業

① 平成23年6月の降雹被災により破損した館内建造物の修理実施のための調査設計を行いました。
1,260千円

② 移築建造物を中心とした館内建造物の劣化調査、維持保全のための設計業務を行いました。1,470千円
1及び2の成果に基づき平成25年度において修復作業を実施します。

予算額 3,000千円

決算額 2,730千円

(支出科目：公益目的事業会計 建設仮勘定) ※屋根修理等積立引当金 3,000 千円取崩で対応

(4) 博物館入口改修 事業

博物館開館 30 周年記念事業の一つとして博物館駐車場入り口（天都山線取り付け部分）に施設名を表示する館銘碑を設置しました。登り、下り両方から見える 2 面構造、割肌の御影石を組上げた台座（高さ 2.4m）に黒御影石のプレートに施設名を彫刻し、はめ込んだものです。

予算額 5,000 千円

決算額 5,250 千円

(支出科目：公益目的事業会計 構築物取得) ※減価償却引当金 5,000 千円取崩で対応

(5) 監獄歴史館暖房用施設更新 事業

歴史館暖房用重油ボイラーが老朽化したため灯油ボイラーに更新しました。暖房用燃料を一元化することにより、煙突、地下埋設燃料タンク等の付帯設備が不要となったため撤去、管理の効率化を進めました。

予算額 2,835 千円

決算額 2,730 千円

(支出科目：公益目的事業会計 建物取得) ※減価償却引当金 2,825 千円取崩で対応

(6) 海外からの利用者に対応する施設整備 事業

利用が顕著に増加している海外からの利用者に対応するため、二見農場建造物群内の展示サインを 5 言語表示に改修しました。LED 照明を内蔵するものを採用し、省電力化を進めました。

予算額 1,500 千円

決算額 945 千円

(支出科目：公益目的事業会計 展示用備品取得) ※減価償却引当金 1,500 千円取崩で対応

5 経営の安定を図るため経費の節減と入館者の確保

今年に入りましてから震災、原発の影響が少なくなりつつあり国内外の入館者は回復基調にありますが、国内の景気の不透明感から未だ予断を許さない状況です。経営の安定を図るためさらに徹底した経費の節減と安定した収入の確保を目指し下記の事業に取り組んでまいります。

(1) 館内解説・案内 事業

解説員の臨時雇用を行いました。24年度より博物館館内解説は有料制とし（一部無料）、入館者へのサービス向上に務めました。また園地内用エンジンカートを導入し、高齢者、障がい者を対象として有料カートガイドツアーを実施し、見学者にやさしい施設づくりを進めました。

予算額 6, 107千円

決算額 5, 160千円

(支出科目：公益目的事業会計 臨時雇用賃金)

(2) 来館者誘致 新聞等のメディアを利用する情報発信 事業

個人、グループ型観光客誘致対策として道内外の旅行誌、新聞等の広告を効率的に利用するほか、報道向けパブリシティの提供を心掛けた情報発信を行いました。

予算額 3, 495千円

決算額 3, 061千円

(支出科目：公益目的事業会計 広報費、広告費、印刷製本費)

(3) 来館者誘致 インターネット等、ITを利用する情報発信 事業

インターネットを利用する広報対策を進めました。公式ホームページ（5言語）の運営、ソーシャルネットワーク・フェイスブック上への公式ページ開設により効率的、速報性を高めた博物館情報の発信を行いました。

予算額 558千円

決算額 399千円

(支出科目：公益目的事業会計 広報費)

(4) 来館者誘致 国道案内看板改修、屋外広告物の掲出 事業

① 設置より年数が大きく経過した国道、道道に設置した三角柱型誘導標識を除去整理し、効果的な屋外標識3基（呼人、北浜、大曲）を設置しました。網走市以外の看板撤去により管理費用削減を進めました。
2,048千円

② 女満別空港、JR網走駅内のコルトン広告掲出を行いました。 603千円

予算額 2,685千円

決算額 2,651千円

(支出科目：1. 公益目的事業会計 環境整備支出、2. 公益目的事業会計 賃借料、広告費)

※屋外標識新設は、減価償却引当金2,080千円取崩で対応

(5) 来館者誘致 施設めぐりバス運行助成 事業

網走市内から当館までを結んでいる(株)網走バス運行の「観光施設めぐり線（天都山線）」の通年運行を目的に 網走市、観光協会、流氷館、北方民族博物館と連携しての助成を行いました。

予算額 450千円

決算額 450千円

(支出科目：負担金)

(6) 来館者誘致 訪日外国人誘致プロモーション 事業

東日本大震災、原発事故風評被害の影響も収まり、海外からの観光客来日数が復調しつつあることに併せて台湾、香港において直接的な誘致渉外広報活動を実施いたしました。早速、流氷観光シーズンの2～3月にかけて大型ツアーの取り込みに成功しています。このほかに、国内の海外観光客受け入れ代理店（ラウンド会社）へのプロモーションを行いました。（プロモーション費用は⑦「来館者誘致 旅行代理店プロモーション事業に含まれる）

(7) 来館者誘致 旅行代理店対策プロモーション 事業

送客数は減少傾向にありますが、内容を精査し、質を高めたプロモーション活動を実施しました。

訪問活動、業者連携団体への加盟、会議出席、旅行商品パンフレットの製作協賛、歳末に関係先に網走刑務所農場産ジャガイモを送付することなどを行いました。

予算額 6,913千円

決算額 6,725千円

(支出科目：公益目的事業会計 食糧交際費、旅費交通費、負担金、広報費、支払手数料、通信運搬費)

(7) 地域団体連携、イベント協賛 事業

1. 地域観光関連団体（観光協会、観光連盟等）に加盟し、実施事業に協賛を実施しました。542 千円
2. 地域で実施されるイベント（夏祭り、流氷祭り、あったか網走など）に協賛をします。606 千円

予算額 1, 3 0 5 千円

決算額 1, 1 4 8 千円

(支出科目：公益目的事業会計 旅費交通費、負担金、広報費、広告費、寄付金)

収益事業会計部門

入館者数の減少に歯止めがかからない現状では、財団運営を安定させていくために、収益事業部門から公益事業会計、法人会計に繰り入れを行うことを期待しなくてはなりません。各部門ごとに効率化を考慮し、事業を進めました。

(1) 物品販売部門

庁舎内ミュージアムショップにおける刑務所作業製品や、関連図書、記念品の販売を行う事業。

物品売上収入：決算額 18,755千円

- ・ 売上収入 雑貨（記念品、刑務所作業製品等）10,733千円、写真関連（売店でのフィルム、電池販売）45千円、書籍4,692千円、菓子類1,411千円、『監獄写真館』売上1,198千円、その他514千円
- ・ 監獄歴史館設置の『監獄写真館』印刷装置改修536千円を実施しました。

(2) 食堂部門

休憩舎内食堂での飲食物の販売、二見農場内での「体験監獄食提供」を行う事業。

二見農場食堂は入館者減少に対応して営業期間を短縮。

食堂売上収入：決算額 14,105千円

- ・ 食堂ホール用ストーブ213千円、食堂厨房用空調装置504千円を購入しました。

(3) 不動産賃貸部門

物産館テナント売店3店舗、写真工芸社、物産館前プレハブでの「リスの森」のソフトクリーム等販売からの賃貸料収入。

賃貸料収入：決算額 5,964千円

- ・ 物産館5,400千円、工芸社480千円、リスの森84千円

(4) 販売委託手数料

自動販売機手数料（販売委託手数料）

販売委託手数料：決算額 656千円